

韭 工 ニュース

県立韭崎工業高等学校
第183号

総務部
2018.12.18

ロボコン山梨開催 大村美術館より絵画 冬季訪問ボランティア

ロボコン山梨開催

スチール缶・ピンポン球入れ競技【準優勝】

スチール缶・ピンポン球入れ競技には、山梨県内の6校から20チームが出場しました。本校からは電子機械科、システム工学科、制御工学科より課題研究の時間に製作をした4台のロボットが出場しました。はじめに行われた予選では、4台すべてがベスト8に入り予選を通過しました。決勝トーナメントではハイレベルな戦いで接戦が多く、どの戦いも僅差でした。結果として、制御工学科のロボットが第2位に入ることができました。優勝チームはありませんでしたが、生徒は朝早くから夜遅くまでロボット製作や操作練習に励み、とても充実感がありました。来年は優勝できるように頑張りたいです。



ライトレース

ロボコンやまなし2018高校生の部「ソーラーカー競技」に電子機械科、システム工学科の生徒が製作したロボットが出場しました。4月から課題研究や放課後を利用して「ニラテク1号」から「ニラテク4号」までの4台のロボットを製作しました。上位8台を決める予選では「ニラテク2号」が1分18秒で完走し1位、「ニラテク1号」も1分47秒の好タイムで2位を獲得しました。その他のロボットも無事予選を通過し4台のロボットで決勝に挑みましました。決勝では予選通り動作すれば優勝できるはずでしたが、数々のトラブルに見舞われ「ニラテク2号」が4位という結果に終わりました。来年は今年の反省を活かして優勝を目指します。



対戦型球入れ競技(自由参加部門)【準優勝】

制御工学科及びロボット工学部員総勢21名(1年生8名、2年生10名、3年生3名)は、6月から「ロボコンやまなし2018」出場に向け球入れロボットの製作に取り掛かりました。しかし、進学試験や資格試験の講習等と思うように進まず、構想は幾つもあったものの、実現に至るまでには多くの困難がありました。お手玉を拾う部分は、掻き込み型、先端部に針を付けたものが安定して取り込めるということではほとんどのロボットで採用しました。お手玉を飛ばす部分は、ピッチングマシンの原理を利用し、2つの車輪を回し、その間に球を送り込み飛ばす方法にしました。また、今回は多くの球を取り込むという工夫に力を注ぎました。しかし、規定の30cm四方のスペースに多くの機能を取り付けるのは難しく、製作に多くの時間が割かれ、操作練習なしで大会に臨むこ



とになってしまった生徒もいました。

迎えた大会では、9台中1台のロボットが予選を突破し準決勝に進み、甲府工業高校に接戦の末に勝利しました。しかし、決勝では産業技術短期大学校との対戦で、前半3分でリードしていたにも関わらず、後半のちょっとしたトラブルにより、お手玉1つ差で敗れてしまいました。大会を終えた生徒からは、「来年は優勝する。」「完成はしたが、まだまだ細かい調整が必要だった。」「ロボット作りは思っていた以上に難しく、アイデアを現実にするには様々な技術が必要だ。」など、悔しさを感じつつ、更なる挑戦を志す声が聞かれました。今後は、現1、2年生がさらに技術力を身に付け、他校に負けないようなロボットを作ってくれることを期待しています。

準優勝:Destiny 2年5組 山下 雄也(甲府南中出身)・2年2組 宮川 祥哉(双葉中出身)
2年6組 野坂 デンヴェル(双葉中出身)

大村美術館より絵画をレンタル

本校では、先に「ノーベル医学・生理学賞」を受賞された大村智先生が、昨年6月16日に本校を訪問した際、大村先生から「高校時代に生徒が本物の絵に触れることで、感性が豊かになり、高まると感じている。私の美術館から貴校に合う絵を探し貴校に飾り、生徒の感性を磨いて欲しい。」というお言葉をいただきました。

これを受け、11月22日(木)の創立記念集会に合わせ、韮崎大村美術館の収蔵作品1点を借り受け、除幕式を行いました。借り受けた作品は「生徒が親しめる絵を」と、大村先生と学芸員の方が選んだもので、人間と動物たちが共存する空想的でメルヘンな世界を描いた作品を多く手

掛ける、洋画家・岡田節子(女子美術大学出身)様の「馬のいる森」という作品です。

式に出席した、田中生徒会長は「絵画を見て芸術に興味関心を持ち、感性を磨いていきたい。本物の絵を見たという経験は社会に出た時、役に立つと思う。」と話しました。

絵画については、本校を訪れる多くの方に御覧いただけるよう、玄関ホール校長室前に設置しました。



冬季訪問ボランティア

12月6日(木)に、ボランティア委員20名が冬季福祉ボランティア活動に参加しました。韮崎社会福祉協議会と連携をとり、地域に在住する3軒の高齢者宅を訪問し、清掃活動や奉仕活動をしました。今回は、草取りや窓ふき、庭の掃除を中心に作業をしました。雨が降る中、黙々と作業を行う姿に一生懸命さや思いやりの心が伝わってきました。高校生活最後の活動となる3年3組名取魁人君は、「始めは寒さを感じたが、草むしりに集中することで寒さを忘れて作業をしていた。」、3年4組古池隆豊君は、「ボランティア活動を9年間続けてきたが、改めて人に感謝されることはとても嬉しく、今後も地域のボランティア活動に取り組んでいきたい。」と感想を述べていました。今回も地域に根差す活動を通じて、高齢者への優しい気持ちが伝わるボランティア活動を行うことができました。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>
e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp